２０１１／１０／３０　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：感謝の人生・実践編：兄弟姉妹に対して７
聖書箇所：ローマ人への手紙　１２章１２節

ローマ１２：１２のみことばを見て行きます。パウロはここで「祈りについての命令」を与えています。**「絶えず祈りに励みなさい」**と。揺るがないで忍耐強く祈り続けなさいとパウロは命じるのです。祈りに専念しなさい。つまり、パウロは「祈りの人」になりなさいという命令を与えたのです。なぜ、それが大切なのか？私たちはもうすでにその内の三つのことを見て来ました。

☆愛の実践
８．絶えず祈りに励みなさい
Ａ．祈りの重要性
１．主の命令だから＝主が命じられたから私たちは行なうのです。私たちは主の奴隷として「従う」という務めをいただいたのです。
２．霊的成長に不可欠だから＝私たちの信仰が成長するために、私たちは「祈りの人」として成長して行くことです。
３．神の働きを為すための力だから
そして四つ目に、
４．神は祈りを通して働かれるから
神は祈りを通して働くことを選択されたのです。
１）災いがエジプトに下ったとき、パロはモーセに祈りを求めた
皆さんもよくご存じのように、エジプトにいたイスラエルの民をモーセが率いて約束の地へと移って行きます。エジプトの地にあって神は１０の災いをもたらされました。面白いことは、その災いが下ったとき、１０回のうちの５回も、エジプトの王パロがモーセに祈りを求めるのです。明らかなことは、パロは全知全能の創造主なる神を信じていたとは思われません。しかし、少なくとも彼は祈りの力を知っていました。
出エジプト８：８　（かえる）**「かえるを私と私の民のところから除くように、主に祈れ。…」**
出エジプト８：２８　（あぶ）**「私は、おまえたちを行かせよう。おまえたちは荒野でおまえたちの神、主にいけにえをささげるがよい。ただ、決して遠くへ行ってはならない。私のために祈ってくれ。」**
出エジプト９：２８　（雹）**「主に祈ってくれ。神の雷と雹は、もうたくさんだ。…」**
出エジプト１０：１７　（いなご）**「どうか今、もう一度だけ、私の罪を赦してくれ。おまえたちの神、主に願って、主が私から、ただこの死を取り除くようにしてくれ。」**
出エジプト１２：３２　（初子の死）**「おまえたちの言うとおりに、羊の群れも牛の群れも連れて出て行け。そして私のためにも祝福を祈れ。」**
パロはモーセに「おまえの神に祈ってくれ」と求めました。祈りには力がある、パロは祈りの大切さを知っていたのです。
２）イスラエルが罪を犯したときに、モーセは彼らのために執り成しをする
また、モーセ自身も罪を犯したイスラエルのために執り成しをしています。モーセがシナイ山に登っている間、残された民は「モーセはいったいどうなったのだろう？」と、アロンに対して自分たちをエジプトから連れ上ってくれた神を造ってくださいと言い、そして、金の子牛が造られました。神はその罪に対して大いに怒りました。神はイスラエルの民を、アロンを滅ぼすと言われました。そのことは出エジプト記３２章に、また、申命記９章に記されています。申命記９：１８－２０**「そして私は、前のように四十日四十夜、主の前にひれ伏して、パンも食べず、水も飲まなかった。あなたがたが主の目の前に悪を行ない、御怒りを引き起こした、その犯したすべての罪のためであり、:19 主が怒ってあなたがたを根絶やしにしようとされた激しい憤りを私が恐れたからだった。そのときも、主は私の願いを聞き入れられた。:20 主は、激しくアロンを怒り、彼を滅ぼそうとされたが、そのとき、私はアロンのためにも、とりなしをした。」**。出エジプト記３２：１０**「今はただ、わたしのするままにせよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がって、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民としよう。」**
つまり、モーセは神が怒りを示して滅ぼすとされたイスラエルの民に、そして、兄であるアロンに対して「主よ、どうぞあわれみを…」と執り成しをするのです。主はその祈りに耳を傾け答えておられるのです。
３）主のさばきを警告されたとき、ニネベの人々は祈った
もう一つ、ヨナのことを思い出してください。主はヨナをニネベに遣わしました。ヨナはニネベを回

って、この町は滅びるという神からの警告を語りました。そのとき、王を初め人々は主の前に悔い改めたとあります。ヨナ書３：４，１０「**:4 ヨナは初め、その町にはいると、一日中歩き回って叫び、「もう四十日すると、ニネベは滅ぼされる。」と言った。:10神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らに下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった。**」、民は自分たちが滅ぼされると聞いて、神の前に悔い改め祈って助けを求めるのです。あわれみを求めます。神はそれにお答えになりました。

ですから、神は祈りを通して働かれるのです。だから、私たちはこの神の前に絶えず祈りなさいと言われているのです。私たちはどんなことでも神の前にもって行くことができるのです。多くの方が自分の家族の救いや、もし、あなたが教会に来ること、主に仕えることを反対されているなら、その心を変えてくださいと祈っておられるでしょう。兄弟姉妹のために執り成し、人々の救いのために祈ります。

適応：

そのような祈りを続けて来られた皆さん、失望していないでしょうか？祈っても祈っても答えが与えられないと「もう、いい、こんなに祈っても神が答えてくださらないなら…」と失望してしまって祈りを止めていないかどうか？すごいと思うのは、主はこのような私たちの弱さをご存じだということです。ルカの福音書１８：１に「**いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。**」とあります。なぜ、そうされたのか？私たちはすぐに失望してしまう者だということをご存じだからです。私たちに問題があるのです。というのは、私たちは自分の祈ったことがすぐに答えられることを期待するからです。そのようにならないと神に対して腹を立てるのです。なぜ、こんなに熱心に祈っているのに聞いてくださらないのですか？と。そこに問題があることはあなたもご存じのはずです。

キリスト者は大変な苦しみを経験するので、主はどんなときにも祈ることを教えられました。イエスが話されたたとえは、神を恐れない、人を人とも思わない裁判官のことです。ルカ１８：２－８「**ある町に、神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいた。:3 その町に、ひとりのやもめがいたが、彼のところにやって来ては、『私の相手をさばいて、私を守ってください。』と言っていた。:4 彼は、しばらくは取り合わないでいたが、後には心ひそかに『私は神を恐れず人を人とも思わないが、:5 どうも、このやもめは、うるさくてしかたがないから、この女のために裁判をしてやることにしよう。でないと、ひっきりなしにやって来てうるさくてしかたがない。』と言った。**」**:6 主は言われた。「不正な裁判官の言っていることを聞きなさい。:7 まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけないで、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。:8 あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しいさばきをしてくださいます。しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。**」、不正を行なう裁判官でも執拗に願うなら「**うるさくてしかたがないから**」と言ってその訴えを聞く、まして、あなたを愛している主はどれ程あなたの祈りに耳を傾けておられることか？と、そのことを言っているのです。主は喜んであなたの祈りを聞いておられるのです。主はあなたの生活にみこころを成し続けてくださるのです。

私たちはそのことを知っているのですが、現実に、私たちは祈っても祈っても答えられないとその祈りを止めているかもしれません。また、ある人はこのように言います。マタイ７：７に「**求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。**」と記されている通り、もっと熱心に求め続け捜し続けるなら、神は与えてくださるにちがいないと。そのような人はあなたの周りに多く見られませんか？自分の欲しいものを得るためには、もっと熱心に祈り続けなければいけない、そうすれば神は与えてくださると。しかし、残念ながら、このマタイの７：７もその他のみことばも、そのように教えてはいません。それは聖書の教えではないのです。もちろん、私たちは主の約束に基づいて、私たちの必要を主の前に求め続けて行くことは正しいことです。しかし、このマタイ７：７はイエスが山上の説教の中で話されたことです。イエスはここでイエス･キリストを信じる者たちに、天国民としてどのように生きて行くべきかを教えられたのです。主に喜んでいただく生活をするために、そして、主に喜ばれる選択をして行くためには、主なる神の知恵が必要なのです。だから、その知恵を熱心に求め続けなさいと言うのです。

私たちにとって祈りが必要であるというのは、私たちにはいったい何が最善であるのかがわからないからです。だから、主に求めなければいけないのです。私たちの問題は、自分の考えていること、願っていることが常に最善だと思っていることです。主がお与えにならないのは、それが最善ではないからです。主は私たちにとって最善なものを与え続けてくださるのです。もし、私たちが主に喜ばれる生き方をしようとするなら、私たちは何をするのが神の前に正しいのか、どう生きて行けばいいのか、どのように対応して行けばいいのか、どのように応答するのか、神の知恵が必要です。だから、熱心に求め続けて行きなさいと言うのです。主の前に、あなたが主の知恵を求め続けて行くなら、捜し続けて行くなら、叩き続けて行くなら、主は与えてくださると言うのです。

私たちが兄弟姉妹の信仰の成長のためにどのように助けて行けばいいのか、そのようなことを考えて実践するためにも、神の助けが必要です。皆さんがだれかから相談を受けて、その人にみことばに基づいてアドバイスをしようとするとき、皆さんは「主よ、どうぞ教えてください。どのように答えたらいいのか、どのように話せばいいのか、助けてください。」と祈るでしょう。そこには大きな責任があるからです。みことばに反することを言いたくないから、私たちは主の前に必死になって祈りながら、その知恵を求めようとします。ときには、兄弟姉妹の罪を戒める必要が出て来るときもあります。そのときにも神の知恵が必要です。また、キリスト教会の中には様々な聖書の教えが常にあります。その中にあって、どの教えが聖書のみことばに準じるものなのか、いったい、聖書が教える真理に沿ったものは何なのか、それを見極めるためには神の知恵が要るのです。ですから、主が教えられたことは、あなたの欲しいものを熱心に求めるなら与えられるではなく、私たちに本当に必要なもの、神のみこころに沿って生きるために神のみこころを知る知恵が要るということです。神のみこころを実践して行くために神の助けが要るのです。私たちがそれを求めて行くなら神が与えてくれると教えてくださったのです。

だから、私たちは救われる前にしていた祈りを、信仰を告白するとともに放棄しなければいけないのです。ここで、私たちが祈りを為すために大切なことを話します。

◎祈りに関する注意事項

ａ）祈りが聞かれるためには、動機が正しいこと

自分の動機を吟味しなければいけなせん。動機が正しくなければ主はあなたの祈りをお聞きになりません。もちろん、イザヤ書５９章で教えるように、あなたの生活のうちに罪があるなら主はあなたの祈りは聞かれません。５９：２**「あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」**と。ですから、私たちは自分のうちに罪がないかどうか自分の心を吟味して、罪があるなら主の前に告白しなければ、その祈りは聞かれないのです。そして、動機が間違っているなら神はあなたの祈りは聞かないと言います。ヤコブ４：３に**「願っても受けられないのは、自分の快楽のために使おうとして、悪い動機で願うからです。」**とあります。悪い動機とは「悪い心」とも訳せることばです。自分の快楽のため、自分の願望を満たそうとする、そのようなことを目的とする祈りは神に聞かれないと言うのです。なぜなら、それは神のみこころを求めていないからです。私たちが祈りにおいてしっかりと吟味しなければいけないことは、どのような動機でこの願いを主の前にささげているかということです。みことばが教えているのは、私たちは正しい動機によって主の前に祈らないといけないということです。

ｂ）みこころを求め、それに従う決意がなければならない

先ほどから話しているように、私たちの祈りはどちらかというと「神さま、どうぞ私の願いどおりになりますように、私の願っていることが叶いますように。」という非常に利己的なものになりがちです。そのような人たちのその考えの根拠になっているのは先に上げたみことばですが、また、このように教えているみことばを見ることができます。Ⅰヨハネ５：１４**「何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はその願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。」**、私たちが望むことは何でも聞いてくださるのでしょうか？このみことばはそのようには教えていません。**「神のみこころにかなう願いをするなら」**とあります。主のみこころが為されるのです。そして、主のみこころが最善なのです。主のみこころが為されるときに主の栄光が現わされるのです。主のみこころが為されるときに、それはあなたにとって最善なのです。だから、私たちはみこころを求め続けていくのです。

そして、私たちの確信は必ずみこころが成されるということです。だから、どんなに熱心に祈ろうと、神と取引して「この願いを聞いてください」と皆さんがどれ程祈ったとしても、それが利己的なものなら神はお聞きにならないということです。私たちの祈りは「神のみこころが成されますように」です。もちろん、私たちはどんなことでも主の前に持って来ることができます。でも、私たちが覚えなければいけないことは「みこころが最善だ」ということです。だから、みこころを求めるのです。そのように教えられたからしなければいけないではなく、みこころがあなたにとっても私にとっても最善だから、その最善を私たちは求めるのです。

Ｂ．祈りの目的

私たちは祈りの大切さを見て来ました。なぜ、みこころを求めることが大切なのでしょう？それは「祈りの目的」を見るときに明らかです。それと関連しているからです。祈りの目的は「神の栄光を現わすこと」です。私たちはそのために生きています。あなたも私も神の栄光を現わすために生きています。神によって造られたものができることは何ですか？私たちを造ってくださった創造主なる神のすばらしさを世に証していくことです。そのために私たちは生きています。生かされている目的も、祈る目的も、私たちが食べる目的も、飲む目的も、すべてがその目的のために為されるはずなのです。神の栄光を現わしていくことです。ですから、祈りの目的とは神のすばらしさを証することです。

１．主の祈り　　マタイ６：９－１３

そのすばらしい例は、イエスが弟子たちに教えられた一般的には「主の祈り」と言われている祈りに見ることができます。

１）この祈りの中には六つの願い事が記されている

最初の三つは「神の栄光に関するもの」です。**「:9 だから、こう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。:10 御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。』**、あとの三つは「私たちの必要に関する願い」です。**「:11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。:12 私たちの負いめをお赦しください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。:13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。」**

ですから、主イエス・キリストが弟子たちにお教えになったこの模範的な祈りを見ると、祈りは自分たちの願い事や要求よりも、先ずは、主を礼拝すること、主を崇め、誉め称えることという「祈りの目的」を私たちに教えてくれています。ですから、私たちが考えなければいけないことは、私たちはみことばが教えているような祈りを実践しているかどうかです。もしかすると、私たちはお願いばかりになっているかもしれません。ロイド･ジョーンズ博士はこのように言っています。「私たちは祈りにおいて余りにも自己中心になりがちであり、そのため神の御前にひざまずいているときでさえ、ただ、自分自身のこと、自分の問題や困難のことしか考えていない。そして、すぐにそれらのことを訴え始める。しかし、もちろん何事も起こらない。そういう祈り方によっては何か起こることを期待すべきではないのである。これは神に近づく態度ではない。」と。ですから、「欲しいものがあります、ください！」というのは正しい態度ではないのです。自分のことを考えて主の前に出るよりも、まず、神のことを考えて出て来なさいと言います。そのために私たちは生きているのです。

２）この祈りは三つの要素で構成されている

また、「主の祈り」は三つの要素によって構成されています。

（１）礼拝＝私たちが主を正しく知ることによって、私たちは主の恵みを益々感謝する者になります。主の恵みを知れば知るほど、私たちはその方を誉め称える者となっていきます。そのようにすばらしい神と交わることができる、そのようにすばらしい神にこのように個人的に祈ることができる。そして、こんなにすばらしいお方が私の父であり、この方が私を日々養ってくださり、私を守ってくださり私を導いてくださるという、このようなすばらしい与えられた祝福を考えるだけでも、私たちはこの方に対する感謝があふれ出るはずです。そのときに私たちは、何があってもこの方を「称えよう」という思いをもって主を称え続けていくのです。まさに、私たちがローマ１２：１で学んだことです。**「私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。」**。だれかから命じられたからではありません。神のすばらしさを覚えるなら、私たちは自分のすべてをもってこの神に応えて行きたい、この神のすばらしさを称えて行きたい、この方のすばらしさを伝えていきたい、この方に従順に従って行きたいと、そのような正しい応答をするのは、神に心から感謝しているからです。「主の祈り」を見たときにも私たちはそのことを教えられます。主に対する心からなる感謝です。それが礼拝へと導いて行くのです。

（２）信頼＝私たちが主の偉大さ、そのすばらしさを知れば知るほどこの方に対する信頼が増していきます。こんなに偉大な神、モーセを導き、ヨシュアを導き、ダニエルを導き、エレミヤを導き、そして、パウロを導いてすばらしいみわざをなさった方、それが私の神だとして、私たちは益々どのようなときにも彼らと同じようにこのお方に信頼を置いて生きていこうとします。

（３）期待＝そして、私たちはそのときにこの方に期待をする者へと変えられて行くのです。どんなときにも、主の栄光が現わされることを願い、それを期待する者として成長していくのです。どんな問題を抱えていようと、どんな困難の中にいようと、その中にあって主がどのような働きを為し、ご自分のすばらしさを示してくださるのか、そのことを期待することができる者へと変えられるのです。

というのは、皆さん、あの「あぶ」の群れがエジプトの地をおおったときに、主が面白いことをおっしゃるのです。出エジプト記８章２２節にこのようなことが記されています。**「わたしはその日、わたしの民がとどまっているゴシェンの地を特別に扱い、そこには、あぶの群れがいないようにする。それは主であるわたしが、その地の真中にいることを、あなたが知るためである。」**、エジプトの全土にこのような災いが下りましたが、「わたしの愛する民」がいるゴシュンだけは「あぶ」がいないのです。なぜ、そのようなことを為さったのでしょう？それは**「それは主であるわたしが、その地の真中にいることを、あなたが知るためである。」**とあります。人々がそれを見たときに「そこに全能の神がいる」ということを知ることになると。

今、私たちは大切なことを見ているのです。イエス・キリストを信じておられる皆さん、主はそのようにあなたをお用いていかれるのです。あなたのうちには生きた真の神がいるのです。そして、この方

はあなたを通してご自分を明らかに示そうとされているのです。あなたが経験する様々困難も、あなたが経験する悲しみも痛みもすべて神が特別にアレンジなさり、それらのことを通してご自身を明らかにしようとしておられるのです。もうすでに、私たちが学んで来ていることです。

ですから、そのことを知っている信仰者は、日々経験する様々な問題の中にあって「なぜ、神さま、こんなことが…」ではなく、「神さま、あなたはどのように働いてこの問題の中でこの苦しみの中で、この悲しみの中であなたのみ栄えを現わされるのですか？期待します。」という信仰者に変わって行きます。私たちは信仰者としてそのようにして生きて来たのです。これからもそのように生きて行くのです。どんなときにも主のみわざを期待するのです。主のみこころは成されるのです。信仰者の皆さん、今あなたが経験しているその問題があなたから希望を奪っていないかどうか？主は敢えてその機会をあなたに与えてくださいました。人間的に見ると大変と思えるかもしれません。しかし、神はあなたの弱さも知って、その上であなたに与えてくださったのです。大切なことは、あなたの力の源である神を見上げることです。主が与えてくださった約束に立つことです。そして、主の約束を覚えることです。この機会を神は用いてご自身の栄光を現わしてくださる。あなたのうちに主なる神がいることをあなたは忘れてはいけないのです。そうして、神ご自身はご自分を明らかにして来られたのです。主はご自分の臨在を様々な機会を通して示して来られたのです。だから、私たちもそのことを期待して生きるのです。「主よ、どうぞ私を使ってください。この機会を神がくださった。私がそれを台無しにしないように、この機会をあなたが用いてくださって、私を助けてくださって、そして、あなたの栄光を現わす機会としてお用いください。」と、そのように祈りながら、主のみわざを期待しながら私たちは生きていけるのです。

皆さん、そのように生きるべきだと思いませんか？まさに、このような生き方こそ、主をしっかりと崇めて、主に信頼を置いて生きていくと言えます。私たちの願い事ではありません。主の栄光が現わされることです。だから、クリスチャンは困難を喜ぶのです。だから、クリスチャンは患難を喜ぶのです。クリスチャンは悲しみ中でも喜んでいるのです。主がすべてのことを導いておられることを知っているからです。私たちが主をより深く正しく知ることにより、心が感謝と畏れに満たされた者となります。そして、状況に負けないで勝利する信仰者として私たちは成長していくのです。信仰の先輩たちはそのようにして生きて来たのです。

２．信仰の勇者たち

１）ダニエル

ダニエルを思い出してください。ダリヨス王は上手く利用されてある法令にサインをしました。それがどんなものであったか？「今から三十日以内、王以外に祈りをする者、祈願をする者はライオンの穴に投げ込まれる」というものでした。皆さんもよくご存じのように、ダニエル６：１０にはこのように記されています。**「ダニエルは、その文書の署名がされたことを知って自分の家に帰った。」**、ダニエルはその命令が法律となったことを知った上で、自分の家に帰るのです。私たちが普通に考えると「神さま、どうしましょう。大変なことになりました。あなたに祈ったらいけない、祈ったら罰せられる、ライオンの穴に投げ込まれるというのです。」となるでしょう。そのように祈ったとしてもおかしくありません。ところがダニエルは違ったのです。**「—彼の屋上の部屋の窓はエルサレムに向かってあいていた。——彼は、いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた。」**とあります。何を感謝したのでしょう？このような文書に署名されて法律が施行されたことを神に感謝するのです。神がすべてのことを支配しておられるからです。その神をダニエルは知っていたゆえに、確かに、彼自身が望んだものではなかった、期待したことではなかったのですが、彼はその中にあって、神を知っているゆえに、神に感謝をささげるのです。そのような信仰者を神は喜ばれお用いになって来たのです。

２）ヨナ

ヨナはどうでしたか？彼は三日三晩魚の腹の中にいました。もちろん、彼の罪が原因であることは明らかです。しかし、その中にあって、ヨナは神に愚痴を言い、不満を言って神をのろっていたのでしょうか？いいえ、彼はその魚の腹の中にあって祈るのです。ヨナ書２：８－９**「むなしい偶像に心を留める者は、自分への恵みを捨てます。:9 しかし、私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえをささげ、私の誓いを果たしましょう。救いは主のものです。」**、ヨナは魚の腹の中にいたのです。これから先、自分の身にどんなことが起こるのか、人間的に見れば希望が見えません。しかし、ヨナがしたことは**「感謝の声をあげて」**、感謝の声を上げたのです。「神さま、ここから解放されて自由になったら感謝します。」というのは私たちです。彼は魚の腹の中で、この後、自分が死んでしまうかも分からないというときでも神に感謝をささげるのです。

３）パウロ

皆さんにぜひ見ていただきたいのはその次です。ピリピ人への手紙４章でパウロ自身がこのようなこ

とを記しています。４：６**「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」**と。パウロ自身は様々な苦しみや迫害がありました。病も患っていました。彼は祈りました。ご存じのように、彼はそのために三度も祈ったのです。Ⅱコリント１２：７－９にこのように書かれています。**「また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。:8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。:9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。」**、パウロは主の前に祈ったけれど、その祈りは聞かれなかったのです。

また、パウロは自分の安全のために祈ってほしいとローマのクリスチャンたちに望んでいます。ローマ人への手紙１５：３０に**「兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によって切にお願いします。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってください。」**とあります。パウロは何を求めたのでしょう？３１節を見てください。**「私がユダヤにいる不信仰な人々から救い出され、またエルサレムに対する私の奉仕が聖徒たちに受け入れられるものとなりますように。」**と、パウロは自分自身の安全を祈ったのです。不信仰な人々から私が救い出されるようにと。神の答えは何でしたか？「ノー」でした。この後、パウロは捕えられて二年間カイザリヤで投獄されるのです。その間に、彼はフェストに対して、そして、アグリッパ王に対しても証をする機会が与えられるのです。このことは使徒の働き２４章に記されています。パウロでさえ「神さま、どうぞ私を守ってください。」という祈りに対して、神の答えは「ノー」でした。しかし、祈った答えが自分の願い通りに答えられなかったそのときでも、パウロは喜びに溢れていました。だから、彼は言ったのです。「いつも喜んでいなさい」と。

Ⅱコリント６：１０には**「悲しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ませ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。」**とあり、７：４には**「私のあなたがたに対する信頼は大きいのであって、私はあなたがたを大いに誇りとしています。私は慰めに満たされ、どんな苦しみの中にあっても喜びに満ちあふれています。」**とあります。これがパウロだったのです。必ずしも、祈りがすべて聞かれた訳ではありません。自分の願い通りに事が進んだのではなかったのです。でも、その中にあって彼は喜びをもっていたのです。なぜでしょう？先に見たピリピ人への手紙を見てください。思い煩いに勝利するために必要なことは「感謝すること」です。みことばがそのように教えています。**「何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」**と。そして、その結果を見てください。７節**「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」**とあります。これが神の約束です。

思い煩うことはできます。悩むこともできます。もし、あなたがそれを選択するなら。でも、あなたはその思い煩いに勝利することができます。どうしたらいいのでしょう？感謝することです。私たちの祈りを振り返ってみると、私たちは抱えている問題を感謝することをしません。私たちは「この状況から解放されたい」です。例えば、病であれば「元気になれば感謝します」、何か悩みがあると「それが解消したら感謝します」、「仕事が決まれば…、この悩みの種が無くなるなら…」と。だから、いつまで経っても思い煩いから解放されないのです。みことばはそのようなことを教えていません。思い煩いを抱くような大変な状況の中にあっても、あなたは神の平安をもって、喜びをもって歩むことができるのです。そのことを神に感謝することです。なぜ、感謝するのですか？ダニエルが、ヨナが、パウロが、信仰の勇者たちがみなしたことです。私たちの神は全能の方であり、この方は主権者なのです。この方が約束されたことは必ずそうなると彼らは信じたのです。だから、彼らはその神に信頼を置いて感謝をささげているのです。私たちが感謝をもって祈るということは、神は必ずみこころを成してくださることへの信頼の表われなのです。だから、主が喜ばれるのです。そして、その結果、神はその人に神の平安を与えてくれるのです。

結論：

信仰者の皆さん、どんなときにも主に信頼し、主の栄光が現わされることを願いながら祈りをささげる信仰者になりたいと思いませんか？神が喜んでくださる信仰者に、そのような祈りの人になりたいと思いませんか？私はなりたいです。神が喜んでくださる働き人に、そのような信仰者に、そのような祈りの人に…。そのためには、主を知ることに時間を費やすことです。そして、いつも主の恵みを覚えてその主とともに歩むことです。そうすれば、真の信仰者は喜びと感謝をもって主との交わりを何ものよりも優先し、そして、それを楽しむ者へと変えられていきます。

このように言えます。「絶えず祈りに励む者は、主を愛し、主に感謝をしている者である。」と。主

を愛しているから主との時間を喜びとするのです。主に感謝をささげているから、その方といつも交わろうとするのです。あなたは祈りの人でしょうか？そのような「祈りの人」が今、この時代にあって、この教会に必要なのです。教会に必要なのはいろいろな働きを為す働き人かもしれませんが、それ以上に必要なのは「祈りの人」です。今、私たちが学んで来たように、神を信頼して、神の前に執り成しを続ける人たちです。みこころが成されることを信じて祈り続ける人です。そのような働き人が必要なのです。そのような祈りの人が必要なのです。あなたがそのような祈りの人かどうかです。もっと言えば、あなたはそのような祈りの人になろうとしているかどうかです。どうぞ、なってください。

１８７２年にあのシカゴのムーディ教会が火事で焼けてしまいました。Ｄ･Ｌ･ムーディは新しい会堂が建築される間、他の人の説教を聞くためにイギリスへと渡って行きます。ある日曜日の朝、彼はロンドンの講壇に立つことを余儀なくされました。しかし、その教会でメッセージをしてムーディが感じたことは、その教会の霊的空気が希薄だったことです。彼が後になって告白したところによれば、「私の生涯の中でこんなに骨が折れた説教をしたことはなかった」でした。彼はこのように思いました。「説教することを承諾するなど、何と愚かだったのだろう。自分はここに説教を聞きに来たのに、自分が説教をしているではないか。」と。彼はその夜も同じ教会で説教をしなければならないと思うと苦しくてたまらなかったと言います。ただ、説教をすると約束したゆえに、彼は忠実にその責任を果たすことにしました。夜になって会衆に直面したとき、そこに新しい空気を感じたのです。「見えざる世界の力が聴衆の上に臨んでいるように見えた。」とムーディは告白しています。彼が説教を終えようとするときに、彼は大胆にこう言いました。「今、主イエス・キリストを受け入れたいという人は起立してください。」と。すると、５００人の人たちが立ち上がりました。彼は自分のことばを誤解されたくないと考えて、もう一度人々を座らせて、今度はもう一度ゆっくりと詳しく説明をした後、「イエスを信じる者はどうぞ立ってください」と言いました。同じ数の人々が起立したのです。彼はまだひょっとしたら何か誤解があるのではないかと思って、「主イエス・キリストを受け入れる人は別室に入るように」と命じました。すると、その５００人が別室に入ったと言います。これはその教会とその近隣にある教会のリバイバルの始まりです。

実は、この話には裏話があるのです。ムーディが朝の集会で話をしたとき、その会衆の中に一人の婦人がいたのです。彼女にはからだの不自由な一人の妹がいました。彼女は集会から帰って、この朝の説教者はシカゴから来たムーディだったと妹に話しました。すると、その病身の妹は顔色を変えて「何ですって！シカゴのムーディさん？私はアメリカの雑誌であの方のことを読んでいました。そして、あの方をロンドンに送ってくださり、私たちの教会に来てくださるようにと祈っていたのです。もし、あの方が今朝説教なさることを知っていたら、私は朝の食事をせずにお祈りをするのでした。お姉さん、部屋を出て戸に鍵をかけてください。お昼は頂きません。そして、だれが来ても私に会わせないでください。私は午後も夕方も祈り続けますから。」と言ったのです。朝は冷蔵庫のようであった講壇にムーディが立っている間、この病床の聖徒は彼を神の前に支えたのです。そして、祈りに答えることを喜んでくださる神は、大いなる力をもって御霊を注いでくださるのです。神のわざです。しかし、神のわざが成されるために祈りが必要なのです。そんな祈りの人がこの群れの中にいるのでしょうか？集会が行なわれているときに、その時間を覚えて祈りでサポートするような人がいるのでしょうか？礼拝が為されているときに、祈りながら「主よ、あなたのみこころが成されるように」と、そのように祈っている人がいるでしょうか？

祈りには力があります。祈りを通して全能の主が働かれます。しかし、必要なのは「祈りの人」です。あなたはそんな祈りの人として今日から歩んで行きたいと願いませんか？神が喜んでくださる働き人として、主があなたを祝してくださることを期待します。そして、今日から祈りの人としてあなたが用いられることを祈ります。

《考えましょう》

１．「祈りの人」となるにはどうすれば良いでしょうか？
２．「主のみこころ」を求めることはどうして大切なのでしょうか？
３．ピリピ４：６を実践するためにはどうすれば良いでしょうか？
４．祈りに関するあなたの新たな決心を記してください。そして、それをあなたの信仰の友と分かち合ってください。